

音 樂（一般）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: center;">採択基準</div>	教育出版（音楽のおくりもの）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材ページに「学習目標」がわかりやすく提示され、他の教材と比較したり、確かな知識や技能を身に付けたりするページを設けることで、音楽表現の幅が広がるよう工夫されている。 ・ 「学びのユニット」のページにより、バランスよく音楽をかたちづくっている要素を窓口とした学習ができ、音楽の見方・考え方を働かせながら学習できるよう配慮されている。 ・ 歌唱・創作・鑑賞の学習の中で、比べる活動を取り入れたり、学習したことが連携させたりすることで、音楽の多様性に触れながら音楽に親しんでいくことができるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年の発達段階に応じた学習内容が配置され、「学びのユニット」に既習内容とのつながりや他の題材とのつながりを示すことで、生徒が見通しをもって取り組めるよう工夫されている。 (2) 「比べてみよう」や「深めてみよう」のページを設けることにより、歌唱・鑑賞の分野では、それぞれの楽曲をより深く学べる展開になるよう工夫されている。 (3) 創作分野では、テーマを限定しないことにより協働的な活動が進めやすかったり、創作後の展開により構成やリズム、テクスチャの学びが深められたりできるよう工夫されている。 (4) 国や形式の違う曲が選曲され、多様な音楽を学んだり対話的な活動を通して曲の持つ良さや美しさを味わったりできるよう工夫されている。 (5) 生徒が意欲をもって学習に取り組めるように、挿絵、写真、図表や文章・語句の表現を工夫し、活動の流れがわかりやすいようにレイアウトされている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 親しみやすい題材を多く取り入れるなどして、3年間を通して系統的、段階的に創作の力が身につくよう配慮されている。 (2) 各単元で比較できる教材を設けることで、各題材で学んだことを生かした発展的な学習活動ができるよう工夫されている。 (3) 「ACTIVE！」のページを学習することで、対話的・協働的な学習の場面が設定できるよう工夫されている。 (4) 生徒にとって歌いやすい曲のほか、現代の歌を取り入れるなど、幅広い選曲に心がけ、生徒が興味をもって意欲的に学べるよう工夫されている。 (5) ステージ演出の様子や、楽曲に関わる国内外の写真が掲載されており、生徒の学習に向かう意欲を引き出すよう工夫されている。 (6) 比較鑑賞の記録、学習内容等を教科書に書き込めるようになっており、学習の振り返りができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜のページをはじめ、全体的に淡いトーンでページをまとめており、写真はクローズアップされたものが比較的多い。 ・ 音楽史上の名曲のメロディを巻末に取り上げ、鑑賞分野との連携を図っている。 ・ 全ての題材に比較教材を設け、本題材で学んだことを発展させたり、楽曲の良さを再認識できるよう工夫されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">教育芸術社（中学生の音楽）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材ページに「何を学ぶか」を示す「学習目標」とそれに迫るための活動内容が提示され、生徒が工夫しながら音楽表現するための見通しがわかりやすく示されている。 ・ 目次や各教材ページに、各題材で主となる音楽要素を提示することで、その視点から音楽の見方・考え方を働かせながら学習を深められるよう配慮されている。 ・ 音楽が生活や文化とどのように関わり、どのような意味や価値があるのかを生徒が考え、音楽に対する感性が豊かになるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年の発達段階に応じた学習内容が配置され、「学びの地図」を通して各単元で身に着けたい力や年間の学習内容の見通しを持てるよう工夫されている。 (2) 豊富なイラストや吹き出しなどで生徒が学習へ向かいやすいよう工夫されている。 (3) 「深めよう！音楽」のページに活動の手順を示すことにより、どのように学習を深めるかについて、音楽の要素を意識しながら学べるよう配慮されている。 (4) 「作詞者の言葉」のページにより、作品の生まれた背景を理解しながら、作品への理解が深められるよう工夫されている。 (5) 情景や作品のイメージが湧くような写真や資料が豊富にかつ大きく掲載され、楽曲のテーマが色付きで示されることで、生徒が作品をより具体的に深く理解できるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;"> 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な学びを意識した題材配列がなされており、歌い継ぎたい唱歌や現代的な曲まで、多様な選曲がなされている。 (2) 歌唱と鑑賞の両面から学習させたり「深めよう！音楽」のページを活用して観点に着目させたりすることで、知覚と感受を関連付けて理解が深められるよう工夫されている。 (3) 演奏者による演奏の差の比較や、伝統的な歌唱を実際に自分が声を出して謡うなど、体験的な学習になるよう工夫されている。 (4) 図形楽譜により、学習の手順がわかりやすく示されており、音のつながりや長さを理解することができるよう配慮されている。 (5) 多様な音楽活動の全体写真により、幅広い音楽を学ぶことができ、吹き出しなどにより、生徒の言語活動や協働的な学びができるよう工夫されている。 (6) 楽曲から知覚・感受したことや学習内容を教科書に書き込むことができ、学習の振り返りができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜のページが配色やレイアウトをシンプルにすることで一見したときにたいへん見やすい。 ・ 表紙や「My Voice！」のページのイラストが生徒にとって親しみやすく、自分たちの生活と音楽のつながりを感じやすい。 ・ 生活や社会の中での音楽の役割についてのページや、我が国や郷土の伝統音楽についてのページが充実しており、音楽文化と主体的に関わっていく態度を養えるよう工夫されている。

音 樂（器樂合奏）

教 育 出 版

教 育 芸 術 社

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: left;">採択基準</div>	<div style="text-align: center;">教育出版（音楽のおくりもの 器楽）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学びのねらい」を設定し、音楽を形づくっている要素を窓口にしながら、表現に必要な技能を学習できるよう工夫されている。 ・ 各楽器の演奏法、姿勢、特徴がわかりやすく示すだけでなく、比較を通していろいろな楽器の特徴を理解できるページがあり、器楽を窓口にした幅広い学びができるよう工夫されている。 ・ 学習の導入に音楽家の言葉や写真が載っており、生徒が意欲をもって学習に取り組みたり、音楽表現のおもしろさを感じられたりできるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 姿勢や構え方、片手のみの基礎的な演奏から、徐々に使う音を増やすなど、生徒の成長の段階に応じて学習が進められるよう工夫されている。 (2) トリルやかえ指等も示されており、生徒が学習を重ねていく中で、達成感や充実感を感じられるよう工夫されている。 (3) 同程度の難易度の曲を複数配置することで、一つの課題に対して何度も取り組むことができるよう配慮されている。 (4) いろいろな楽器とアンサンブルできるようにしたり、表現と鑑賞の一体化を図ったりして、多様な学習ができるよう工夫されている。 (5) 運指表や奏法をイラストや大きめの写真を用いて説明しており、生徒が目で見ても確認しながら、自分で学習を進めていけるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 少しずつ奏法や技法のバリエーションを増やすように練習曲が配列され、基礎的な学習を生かして、さらに発展的な学習ができるよう工夫されている。 (2) 技能の習得に止まらず、鑑賞の学習と関連付けたり、世界の音楽とつなげて考えたりできるよう工夫されている。 (3) 「何が同じで、何が違う？」のページで、世界の同族の楽器を比較したり、楽器の音色や仕組みに着目させて楽器のもつ特徴を捉えさせたりしながら学習を深められるよう工夫されている。 (4) リコーダーの運指表が楽譜の横に記載されていることで、生徒が必要なときに簡単に確認しながら練習が進められるよう配慮されている。 (5) ギターのコード表は、分かりやすいよう写真で掲載されており、生徒が興味・関心をもって取り組めるよう工夫されている。 (6) 学びのねらい→学びのポイント→まとめの曲→評価というように学習活動の流れが明確で、単元を通して身に付けた技能を再確認しながら学習が深められるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽史上の名曲を巻末に載せ、鑑賞との連携を図っている。 ・ 演奏時の手元・口元の部分を拡大した写真を余白にレイアウトし、生徒にとってわかりやすくなるよう配慮されている。 ・ 楽譜にコードが書かれていることで伴奏がつけやすくなっており、生徒が意欲的に学習に取り組めるよう工夫されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">教育芸術社（中学生の器楽）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各楽器の演奏法、姿勢、特徴がわかりやすく示され、基本を大切にしながら、効率的に演奏しやすいよう工夫されている。 ・ いろいろな楽器とアンサンブルをしたり、楽器を使って創作したりできるよう工夫されている。 ・ 音楽の要素を言語化して示すことで、要素を窓口にも曲への理解を深め、音楽に関する興味・関心を高められるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) Lesson 1～4まで単元が設定され、姿勢や構え方、片手のみの基礎的な奏法から、見通しをもって段階的に学習が進められるよう工夫されている (2) 一つの課題に対して段階別に難易度に幅をもたせて楽曲を配列することで、個人の成長段階に合わせた進捗で学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (3) 多くの生徒が困難さを感じるポイントを「Q&A」や解説をつけることにより、学習を進めていけるよう工夫されている。 (4) 各楽器の参考曲が提示され、創作と関連させた学習を設定することで、鑑賞と表現を一体的に学習できるよう配慮されている。 (5) ギターのコード表は、コントラストが鮮明でわかりやすく、一目で抑える場所がわかるように示されており、写真は奏者の全体を掲載しており、姿勢や構えがわかりやすい。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 楽器の持ち方等の基礎的事項を丁寧に扱った上で、徐々に教材の難易度を上げる配列により、系統的に学べる工夫がされている。 (2) 「楽器でメロディー」のページでは、音楽史上の名曲や、現代の人気曲のメロディーを取り上げ、いろいろな楽器で演奏できるよう工夫されている。 (3) 多様な楽器の基本奏法を取り上げたり、伝統的な楽器を使って日本古曲や中学生に人気の最近の曲も扱えるように配列したりして、生徒が相互に関わり合いながら学習できるよう配慮している。 (4) リコーダーでは、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの楽譜を並列することにより、アルトリコーダーの学習でも、小学校の学びを生かして学習でき、また移調楽器の理解に発展できるよう配慮されている。 (5) リコーダーの楽譜のページが、楽曲同士の間隔を十分にとって見やすくレイアウトされていたり、学習目標が端的に示したりして、アンサンブルしやすい構成になるよう工夫されている。 (6) 学習問題や「演奏のポイント」、「練習のポイント」が表記され、生徒が自己評価しながら学習を進められるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習目標と音楽の要素が整理され、曲の理解を促している。 ・ 写真が奏者の全体と演奏している部分も写したり、楽器の解説や演奏者の言葉を載せたりすることで、演奏の技能だけでなく、楽器のもつ特徴や良さを感じとれるよう工夫されている。 ・ 使われている色がすっきりとしていて、ページ全体の構成がまとまっている。